

2002年度下半期 展覧会開催報告

展 示 部 会

「江戸・明治幻影－館蔵古写真とその周辺－」

2003年1月16日(木)より2月13日(木)まで、標記の展覧会を2階展示室で開催し、きわめて好評のうちに終了した。

カメラ・オブスキュラ(暗箱)の原理と感光材料を結びつけた「写真術」(photographie)は、19世紀前半フランスで開発され、日本へは、嘉永元年(1848)に長崎出島を経て薩摩藩にもたらされた。その後、写真は日本全国に広まり、幕末には早くも多くの職業写真師が生まれ、時代の証言となる貴重な映像をのこすことになる。

とりわけ、新開地・横浜には、外国人も含め多くの写真師が写真館を開業し繁盛していた。名高い写真師ペアトの写真館を受け継いだ「ファーサリ商会」で、明治20年代に製作された海外向けの土産用着色写真アルバムが4冊、図書館に所蔵されている。ヨーロッパの日本趣味、オリエンタリズムをかきたてたものであるが、日本から見ると当時の風景や風俗・雰囲気をも今につたえる貴重な資料である。

今回はこの古写真を中心に、写真の理論および写真術に関する洋学資料を加え展示を構成した。

当初はポスターとHPでの広報のほか、さしたる宣伝もしなかったが、じわじわと評判を呼んだらしく、また、期間中、『朝日新聞』が取材し写真入りで報道(2月5日朝刊第2東京面)したこともあってか、多くの観覧者が訪れた。

会場に置いたノートに記された観覧者の感想は絶賛の嵐であった。たくさん書き込まれた中からいくつかひろってみよう。

まず一言。とてもイイ!! 現物古写真というのは、印刷物として刊行されているものを除くと、なかなか見る機会がないものです。うれしい。またさりげなく写真の歴史の解説もあってりしてたいへん勉強になりました。

古写真に着色したものというのはとてもきれいで不思議な感じがします。このような企画はも

っとやってほしいです。

写真も興味深かったけど、コメントがけっこー笑えておもしろかった!!ここの展示室で行われる展示会は、毎回とても楽しく興味深いので、次回も楽しみにしています!!

館蔵資料だけで企画展がひらけるのも早大ならではのですね。館蔵資料の中から展示するものをうまく探しだす技術もおありなのでしょう。尊敬します。(教科目等履修生)



「日本化学会125周年記念洋学史資料展」

田中耕一さんをはじめ、このところ立て続けにノーベル賞受賞者を輩出しているわが国の化学界、その代表的な組織である「日本化学会」との共催により3月12日(水)より21日(金)まで、會津八一記念博物館にて開催。日本語で書かれた最初の化学書である『舎密開宗』(せいみかいそう)の著者、宇田川榕庵の資料を中心に、重要文化財も含む本館洋学文庫の一級資料を展示した。

「館蔵資料でたどる書物の歴史」

例年、卒業式・入学式のシーズンには、展示室で「館蔵資料でたどる...」シリーズを展示している。今回は楔形文字の刻まれたクレイ・タブレット、パピルスに記されたエジプトの「死者の書」の断片、百万塔陀羅尼といった書物史の本にかならず出てくる標本資料をならべた。3月20日(木)より4月15日(火)まで。悠久・膨大な書物の歴史の一端を展示した。(文責:松下 眞也)